CRファクトリー
Community & Relationship

【住所】 〒108-0014 東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階
【Web】 https://crfactory.com/
【Email】 info@crfactory.com
https://www.facebook.com/npocrfactory/

CRファクトリー
Community & Relationship

CR FACTORY ANNUAL REPORT 2020

年次報告書

NPO法人CRファクトリー

特　集

Withコロナ時代の市民活動・コミュニティ活動

── コロナ時代 2年目に向けて ──

NPO法人CRファクトリー
代表理事　呉　哲煥

2020年に世界中を襲った新型コロナウイルス。世の中は3密（密閉・密集・密接）を避けなければいけない状況となり、イベント・場づくり・交流などを主活動とする多くの市民活動・コミュニティ活動にとっては、なかなか活動がしづらい難しい一年となりました。

コロナ時代2年目に突入する2021年、どんな心構えで臨めば良いのでしょうか。私からは2つのことを提言したいと思います。

市民活動のDX（デジタルトランスフォーメーション）を進める1年

2020年はZoomなどのオンラインコミュニケーションツールが大躍進して、ミーティングやセミナー・イベントがオンラインで行われることも多くなりました。オンライン化に適応できた団体・組織はコロナ禍においても比較的活発に活動することができましたが、オンライン化がなかなか難しい団体・組織は活動が止まっているところも多く見受けられました。オンラインをやるかどうか迷っていた団体も、コロナ時代2年目の今年はぜひオンラインへのチャレンジと定着化に向けてがんばってみてはいかがでしょうか。

オンラインに苦手意識を持っていた高齢の方が、Zoomなどを使いこなすようになった例をいくつか見てきました。話を聞いてみると「やってみると意外に楽しい」「最初はとっつきにくいけど、何回かやっているうちに慣れてくる」「感染がこわくて外出や人と会うことを極力控えている中で、マスクを外してみんなと話せるのがうれしい」などとおっしゃいます。やってみると意外とできるものです。

そして、ここからぜひやって欲しいのが、その輪を広げることです。苦手の壁や食わず嫌いの壁を超えるには、誰かの手ほどきや伴走が効果的です。少しオンラインが得意になった人が次の仲間にオンラインツールの使い方を手ほどきしていく。そうやってオンラインの輪を広げることで、少しずつオンラインができる仲間が増えていく。そんなことを積み重ねていくうちに、いつのまにか仲間内にオンラインでミーティングやコミュニケーションをしようとする雰囲気・機運が出てくる。そこまで行けば、後は前に進むだけです。みんなとコミュニケーションしながら活動を進めていってください。時にはリアル・対面も織り交ぜながら。

そもそもオンラインは市民活動・コミュニティ活動にとってかなり有効な道具だと思います。みんな本業や家庭がある中で、限られた時間を持ち寄ってやっているのが市民活動・コミュニティ活動です。会議のたびにみんなが移動して一箇所に集まるという構造は、頻度が高くなってくると人によっては負担や参加しづらさにもつながります。オンラインは限られた時間の中でも集まりやすく、移動するほどの時間をつくれない人も参加しやすく、本業や家庭とのバランスも取りやすくさせてくれます。みんな忙しくて、時間的な制約が多いのが市民活動・コミュニティ活動の基本構造である以上、オンラインを取り入れることはコロナに関係なく理にかなっているのです。

もう1年続くコロナ時代。これを良い機会と捉えて、活動のオンライン化にチャレンジしてみてはいかがでしょうか。そして、アフターコロナにおいては、リアルもオンラインも両方を使いこなせる団体へと進化することが、約2年間に渡るコロナ時代を生きた意味になると思います。コロナがなければ世の中はこんなにオンライン化が進みませんでした。今は千載一遇の好機です。市民活動・コミュニティ活動こそオンラインをうまく使いこなして、いろいろな人が参加できる活動にしていきたいです。

活動のあり方・やり方を再設計（リデザイン）してみる

この1年間で活動のあり方ややり方に大きな転換を迫られた団体も多いと思います。今はオンラインに転換して活動をどんどん進めている団体もあるでしょうし、感染対策を施しながらリアルな場をつくって活動している団体もあるでしょう。また、今はお休み期間として一時休止している団体もあると思います。

変化のめまぐるしいこの期間は、2021年度をどう活動していくのかを考えると共に、2022年度も含めてどうしていくかを考えることが重要だと私は思います。いずれアフターコロナがやってきて、リアル・対面でのミーティングやイベントができる日が来ます。そのときにどのような活動になっていると良いのか。オンライン化したものをどうリアルに戻していくのか。何をリアルにして、何をオンラインのままにするのか。それを考えておきたいです。

活動が止まっている場合は、止まった活動をどう再起動するのか、できるのか。再起動するために、今は何をすると良いのか。細々と幹部だけでも集まってミーティングを重ねておくのはいいかもしれません。そのときは熱を絶やさないことと共に、アフターコロナの活動の再設計についても議論してみてください。

この歴史に名を残すであろうコロナ禍を、敢えて前向きに捉え直すならば、団体・活動が生まれ変わるチャンスとも言えます。組織は内側から変わることは難しいものです。外圧は大きく変わることに力を貸してくれます。もう一度生まれ変わって活動を始めるならば、どんな活動にしたいか。そのくらいの大胆さを持って再設計してみたいです。紙とペンを用意して描いてみてください。そこにわくわく感を感じられたら、その活動は必ずまた始まっていきます。

じっと我慢のときもあるでしょう。でも時は流れ、また状況は変化していきます。アフターコロナになって、リアル・対面でミーティングやイベントができる日がやってきます。そのとき私たちの活動はどうなっているでしょうか。必要に応じてオンライン化を進めながら、この機会に活動の再設計（リデザイン）をして、Withコロナ時代の2年間で良い方向に生まれ変わったと言いたいです。しっかりと希望を持って、へこたれずに行きたいです。だって、市民活動・コミュニティ活動は「人間」と「社会」にとって大切なものですから。

特設ページ

新型コロナウイルス(COVID-19)状況下における
市民活動・コミュニティ活動について

コロナ時代における学び・気づきやチャレンジ・実践事例を掲載しています。コロナ禍での市民活動・コミュニティ活動を進める上での参考にしていただければ幸いです。

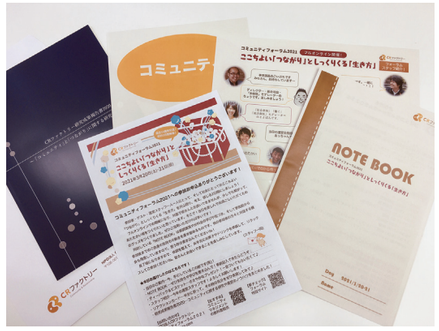
https://crfactory.com/intermediary/page-8195/

右のQRコードからアクセスできます

ピックアップ事業事例

事例1 コミュニティフォーラム２０２１

主催イベント



CRファクトリー設立15周年という節目に、過去最大の2日間開催で「コミュニティフォーラム2021」を開催しました。**「心地よい『つながり』としっくりくる『生き方』」**をコンセプトに、**一般社団法人シェアリングエコノミー協会　事務局長の石山アンジュ氏**と、**studio-L　代表の山崎亮氏**を基調講演にお迎えし、全12分科会のゲストとともに、私たち自身の生き方や、コミュニティ･つながりのあり方を探求する場をつくりました。

<分科会テーマ>

「社会参加」「子育て」「障害･難病」「コミュニティキャピタル」「多様性」「医療」「若者支援」「つよあたアライアンス」「働く」「地域コミュニティ」「教育」「地方創生」

コロナ禍による社会構造の変化やつながりの格差･孤立が広がり、多くの人が揺さぶられた一年だったからこそ、**最適で快適なコミュニティ･つながりを持つことの重要性**を発信･啓発することができました。

事例2 オンライン活動支援 in 川崎市

コンサルティング

神奈川県川崎市「コロナのピンチをチャンスにする伴走支援助成」にて3か月間、3団体の活動のオンライン化を伴走支援しました。シニア世代向けの健康体操普及に取り組む「健康福祉増進事業団」は、パソコンを利用していない方が多い状況にあったことから、まずは利用デバイスのアンケート調査や配信テストなどを丁寧に進めていきました。

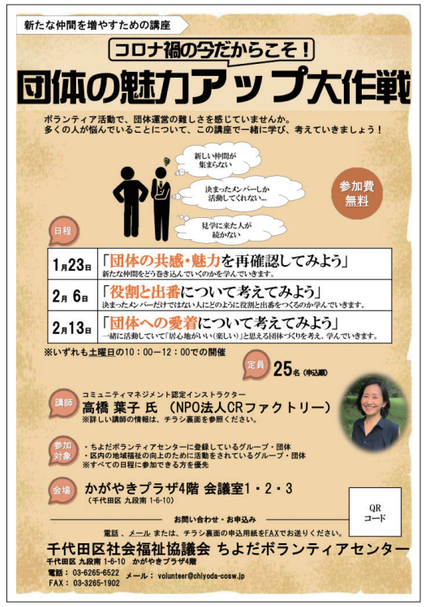
地域密着の社会人落語会「やかん寄席」では、YouTubeチャンネルを開設し寄席をオンラインでお届けすることにチャレンジしました。

視覚に不自由がある方のための音訳ボランティアグループ「みやまえエコー」では、毎月行う会員の勉強会と年に一度開催する一般向け講習会をリアルとオンラインでの同時開催することに取り組みました。

先が見えない中でも必要とする人のために活動を継続したり、新たな挑戦をするには尚更、一緒に試行錯誤する存在が重要だと感じます。

事例3 新たな仲間の巻き込み方 in ちよだボランティアセンター

出張セミナー



東京都千代田区社会福祉協議会･ちよだボランティアセンター主催「新たな仲間を増やすための講座　コロナ禍の今だからこそ！団体の魅力アップ大作戦」を担当しました。

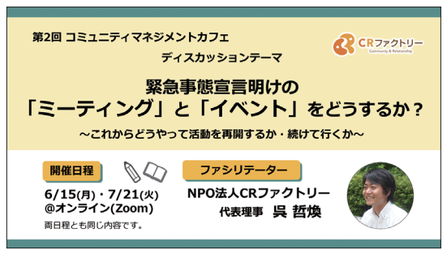
センターに登録しているボランティア団体は160に及ぶとのことですが、新規メンバーがなかなか集まらず、**課題としてメンバーの固定化や高齢化、役割が一部メンバーに偏ってしまっていること**などがあがっています。

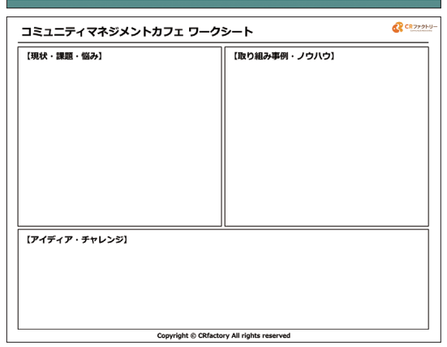
そこで今回は**「団体への共感・魅力について」「役割分担（役割と出番）について」「団体への愛着について」**というテーマで3回連続講座を実施。20～80代までさまざまな世代･活動内容の方が集い、グループワークでもお互いの話を聞きあい積極的に学びあう姿が印象的でした。

当初はリアルで開催予定でしたが、緊急事態宣言により急遽オンライン講座へ切り替えることに。職員の方々が事前も当日も丁寧に接続サポートをされて、まさに強くあたたかい場が生まれていました。

事例4 コミュニティマネジメントカフェ

出張セミナー　# 調査・研究





新型コロナウイルスの影響によって市民活動･コミュニティ活動の環境が大きく変化しました。多くの団体がこの状況の中でどのように活動していけば良いのか不安を抱えていました。そこでCRファクトリーでは2ヶ月に1回の頻度で「コミュニティマネジメントカフェ」というワークショップを開催。**コロナ状況下における「悩み・課題」や「取り組み事例・ノウハウ」を市民活動団体同士で共有できる場**を設けました。

正解がわからないこの状況下で、**同じように市民活動・コミュニティ活動をしている人たちと話せることはとても大きな励みと癒やしと勇気づけ**になったと思います。毎回いろいろな悩み･課題と事例･ノウハウが出てきて、それをレポートとしてまとめて世の中にもシェアし、多くの方に参考にしていただきました。

この取り組み･ワークショップは武蔵村山市の市民活動センターでも取り入れられ、地域の継続的なワークショップとして広がっています。

ピックアップ事業事例

事例5 コミュニティ塾(E- learning版) in 松戸

出張セミナー

まつど市民活動サポートセンター(運営：まつどNPO協議会)にて、コミュニティ塾(E-learning版)を実施しました。4年目となる2020年度は、**発展期・成熟期の団体の組織基盤強化**を目的に、参加団体を絞って少人数でじっくり学び合う機会として開催しました。講義動画による事前学習と、スクーリング(Zoomによるオンライン集合授業)による対話を通して、課題の整理・分析や解決に向けたアクションプラン深める場を作ることができました。同じ団体から代表だけではなく、スタッフ・メンバーも複数名参加し、**団体内での共通認識が生まれ、課題解決に向けた士気が高まる**こともこのプログラムの大きな効果です。講座最終日には、プレゼンテーションと交流会も行い、参加者同士の関係性が深まり、今後も**情報交換やコラボができるようなネットワーク**も育まれました。今後も地域のコミュニティの価値を高めるため、各地の中間支援組織と協業してプログラムを展開してまいります。

事例6 コミュニティマネジメント塾@大田区

出張セミナー

東京都大田区で、昨年度に続き行政との協働事業として「コミュニティマネジメント塾」を実施しました。コロナ禍での開催となりましたが、感染対策の上でリアルで行いました。

＜講座内容＞

(1) コロナ時代の市民活動・コミュニティ活動とは
(2) 強くあたたかい組織をつくるコミュニティマネジメントの原則
(3) 団体の理念・ビジョンを明確にし、共有するためのコツ
(4) 新たな仲間を巻き込み、主体的な担い手を増やすポイント
(5) 一人ひとりの役割と出番がコーディネートされる組織づくり
(6) 学び・気づきの振り返り/塾生によるプレゼンテーション

地域の市民活動・コミュニティはコロナ禍でその必要性が高まっていますが、感染対策との狭間でどう進めていくべきか悩まれている方々も参加しました。この場を通して**お互いの悩みや新たな取り組みを共有し、学び合い、エンパワーし合うこと**ができ、大変意義のある場となりました。

事例7 コミュニティマネジメントの教科書

出張セミナー　# 書籍

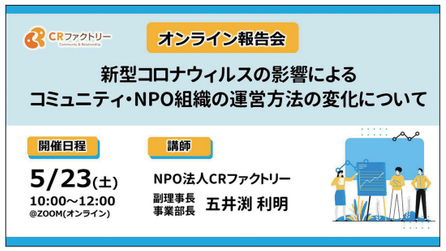
2020年3月に発刊した「コミュニティマネジメントの教科書」は、年間で500冊を販売し、読書会や出張セミナー、スタッフ研修など、様々な場面で「コミュニティマネジメント」の体系的な知見・理論をお届けすることができました。主な活用事例は以下の通りです。

・著者 呉による「オンライン読書会」の開催
・「金沢市市民活動サポートセンター」による出張セミナーの開催
・「マドレ・オホーツク」による自主読書会の開催
・「NPO法人コモンビート」にてスタッフ研修の実施

本書は、**コミュニティ運営における共通言語や理論の拠り所**としてご活用いただけていることを実感するとともに、今後も**CRファクトリーが15年以上にわたって培ってきた知見・ノウハウ**を、全国的に波及していくことができるツールとして普及していきます。

事例8 調査レポート「コロナ禍のコミュニティ・NPOの運営方法の変化」

調査・研究



https://crfactory.com/6640/

レポート全文をお読みいただけます

新型コロナウイルスが社会を襲ってきた2020年3月～4月にかけて、また感染者数が増加を続けていた11月～12月にかけて、NPO・市民活動・コミュニティ活動者向けに緊急アンケートを行いました。コロナ禍において起きている困難や変化について多くの団体・運営者に回答をいただき、それをレポートにまとめました。運営に様々な変化が起きている他、興味深いノウハウ・工夫や、運営者視点での悩みなどが見えてきました。特に「着目したい5つの変化」は以下の通りです。

1. 活動の「試行錯誤」や「雨宿り」の期間
2. オンライン・リアルの「両利きの運営」
3. 水平方向の「広がり」と垂直方向の「ギャップ」
4. 関わる人の「孤立」や「不安」へのケア
5. コミュニティ・組織の「信頼貯金の残高」の増減

レポート全文については、CRファクトリーのHPからぜひご覧ください。

事業報告

1 人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業

NPOやコミュニティのマネジメントに関わる人を主な対象として、以下のような事業を実施しました。

PHASE1 コミュニティマネジメントとの出会い

セミナー・講座・勉強会

「コロナ時代の市民活動」、「オンライン相互理解ワーク体験」、NPOリーダーをゲストに招いた対談イベントなどを実施し、コロナ禍でのコミュニティの重要性や活動を継続するためのノウハウや事例を発信することができました。

参加人数 546名　年間 43回 開催

PHASE2 コミュニティマネジメントに変化を生み出す

コミュニティ塾

参加人数 13名 全9回

8期目を迎え、連続講座による体系的なインプット、事前課題やプレゼンなど豊富なアウトプットと相互フィードバックを通して、コミュニティマネジメントを習得した修了生を輩出しました。

コミュニティ塾（E-learning版）

参加人数 13名

E-learningとスクーリングを組み合わせた反転学習のプログラムとして5期目を迎え、質の高いアウトプットと深い学び合いによって修了後も高め合えるネットワークが生まれました。

コミュニティ・エンパワメント・ラボ

参加人数 10名

活動への想いやモチベーションを見直す対話プログラムとして6期目を迎え、質の高い磨き合う環境を通じて、修了生による自主的な交流や活動も生まれました。

コミュニティキャピタル診断

参加団体数 98団体 2,043名

コミュニティの状態（理念共感・自己有用感・居心地の良さ）を数値化するツールとして、NPOやPTA、企業など多方面の団体に導入することができました。

スタッフ研修・コンサルティング

参加団体数 11団体 334名

NPOや地域コミュニティからご依頼いただき、組織基盤強化を行うため、メンバーの相互理解、ビジョン策定、事業計画策定などを支援しました。

PHASE3 強くあたたかいコミュニティづくりを志す人たちが集う

ビジョンフォーラム

今回も応援会員や協業パートナーの方々をお迎えし、記念ノベルティの製作や10年間の戦略発表など、関係性・エンゲージメントを深める場として開催することができました。

参加人数 96名

コミュニティフォーラム

設立15周年という節目に、過去最大の2日間で実施しました。家族や健康など、全12分科会による様々なテーマでコミュニティや生き方を問い直す機会を作ることができました。

参加人数 125名 2020年
参加人数 139名 2021年

2 全国に「強くあたたかい組織」をあふれさせるための普及育成事業

各地の中間支援組織や自治体からの依頼を受けてセミナー・講座を実施し、様々なテーマで多くの方々にコミュニティマネジメントについての普及育成を行いました。

参加人数 1,236名

年間 49回 開催

中間支援組織・自治体

せたがやコミュニティ財団、さが市民活動サポートセンター、八王子市市民活動支援センター、塩尻市民活動センターえんのわ、かわぐち市民パートナーステーション、三鷹市生涯学習センター、春日部市市民活動センター、茅野市市民活動センター、長野NPOセンター、ふくしま地域活動団体サポートセンター、みやぎNPOプラザ、フミコム、しろい市民まちづくりサポートセンター、都筑区区民活動センター、吉川市市民活動サポートセンター、前橋市市民活動支援センター、ながはま市民協働センター、武蔵村山ボランティア・市民活動センター、ちよだボランティアセンター、金沢市市民活動サポートセンター、明治大学、神田外語大学、東京家政大学、ETIC.、NPOサポートセンター、障害者リハビリテーション協会、マンションコミュニティ研究会、フォーラムアソシエ、是空、NACS-J、ソーシャルコーディネートかながわ、川崎市、西東京市、横浜市青葉区、ふじみ野市、市川市

セミナー・講座のテーマ例

コロナ時代のコミュニティマネジメント / Zoom活用基礎講座 / 新たな仲間の巻き込み方 / 主体的な担い手の育成 / データで語るコミュニティとつながりの重要性 / 大学公認サークル幹部員向け講習会 / 通いの場運営者向け講座 / 非営利組織のマネジメントから学ぶPTA運営のポイント

セミナー・講座といった直接的な学びの場だけではなく、書籍・ツールを販売することによるノウハウの普及を行いました。

- 503冊 書籍 コミュニティマネジメントの教科書
- 36冊 書籍 NPOの組織マネジメントノウハウ・コレクション
- 15冊 書籍 コミュニティ白書2016

3 地域に元気な団体と個人を増やすために 自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業

コミュニティの活性化やコーディネート人材の輩出を目的として、連続講座や育成プログラムを実施しました。各自治体と良好な協働関係を築けており、いずれも継続的な取り組みになっています。

東京都中央区 地域コミュニティの担い手養成塾

述べ参加人数 85名　全6回 開催

町会・自治会などの地域コミュニティの新たな担い手を育成し、主体的な活動を支援しています。すでに6年目となり、これまでの修了生は100名を超えて、定期的な同窓会も実施しています。

東京都大田区 コミュニティマネジメント塾 in 大田区

述べ参加人数 91名　全6回 開催

昨年度に続き大田区との協働事業として実施しました。地域の市民活動・コミュニティの基盤（活動の体幹にあたる、主体性や愛着、人と組織の関係性）を整えていく学び合いの場をつくりました。

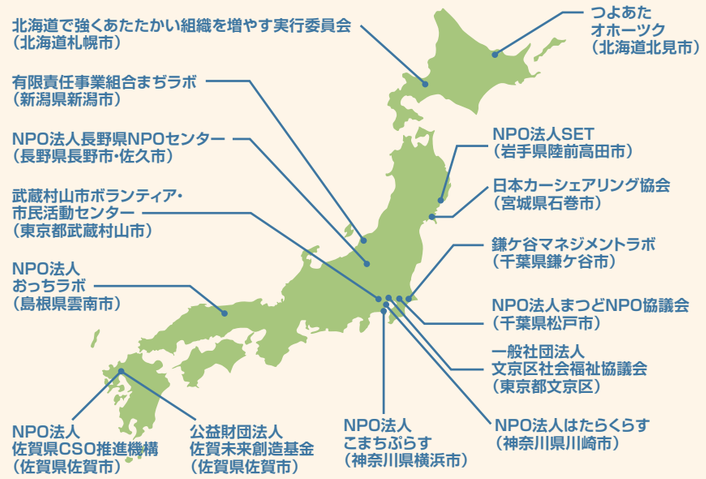
千葉県鎌ケ谷市 地元づくり術入門講座 in かまがや

述べ参加人数 47名

鎌ヶ谷市との協働も5年目となりましたが、2020年度は状況に合わせた形で完全オンラインでの講座になり、幅広く敷居低く学びの機会をつくりました。

4 中間支援組織等と共に 組織基盤づくりを支援する パートナーシップ事業

各地の中間支援組織など共有ビジョンを描けるパートナーとともに、強くあたたかい組織やコミュニティを増やすための組織基盤づくりの支援を全国で行っています。
地域のコミュニティの価値を高める協働事業の実施、CRファクトリーのコミュニティマネジメント支援施策の提供・導入、戦略策定の支援などを行っています。



5 「強くあたたかい組織・コミュニティ」をつくるためのノウハウ開発、「つながりとコミュニティの重要性」についてのエビデンスづくりを行う調査・研究事業

コミュニティキャピタル研究会（上智大学との共同研究）

コミュニティキャピタル診断は、これまでの累積で実施団体数約550団体・実施対象者11,700名となりました。NPO法人チャリティーサンタやNPO法人SETとの共同調査も引き続き積み重なり、追跡調査も進んでいます。

「住民主体の共生型地域づくり」に関する研究（厚生労働省）

厚生労働省の「住民主体の共生型地域づくり」研究班に参加し、昨年に引き続きインタビュー調査を実施しました。共生型地域づくりの普及支援ガイドとしてとりまとめ、社会福祉法の改正に向けた提言として活用されます。

こまちぷらすコミュニティの価値の可視化（早稲田大学との共同研究）

早稲田大学の石田光規教授との連携で、認定NPO法人こまちぷらすの「コミュニティ」の価値・効果についての調査研究がついに論文として発表されました。今後は論文を活用して、さらなる展開を図っていきたいと思います。

「コロナ禍のコミュニティ・NPOの運営方法の変化」に関する実態調査

コロナ禍においてNPO・市民活動・コミュニティの組織や運営がどのように変化したのかについての実態調査を行ないました。緊急事態宣言の出ていた2020年5月頃とその約半年後の2020年12月の2回にわたり実施しました。

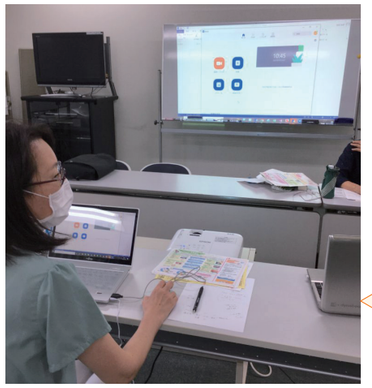
参加者・パートナー・クライアントの声

コロナ禍のピンチをチャンスに！

私たちは、音訳ボランティアをしています。音訳CDの作成や、対面朗読などの他にも、音訳入門講習会や会員向けの勉強会も開催しています。
ところが、コロナ禍で活動に危機が・・・。「この状況を乗り切るには、オンライン化しかない！」とCRファクトリーさんの伴走支援を受け、みんなで一斉にZoomをインストールから学びました。目標は講習会（全3回）の、講師も受講者もリアルとZoomでの超ハイブリッド開催。勉強会で経験を重ね、課題が出るたびに試行錯誤を繰り返し、何とか無事に開催できました。伴走支援をしていただいて、本当に心強かったです。はじめは本当にできるのかと不安でしたが、今では感染拡大しても安心して活動を続けています。
シニアが多い団体ですが、全員がZoomを使えるようになり、感染リスク回避だけでなく、気軽に活動に参加できるようになり、練習に欠かせないマスクなしでの発声練習も可能になりました。活動の幅も広がりそうです。新たな取り組みも考えながら、これからもみんなで楽しく活動していきたいです。

みやまえエコー
代表
西尾 有紀さん

PICK UP



まずはパソコンを持って集まり、Zoom研修会を実施。自宅から一人でも入退室できるよう何度も練習。

感染対策もしながら、リアルとオンラインの同時併用での勉強会を開催。

勉強会後の振り返りミーティングは、Zoomで実施。

担当者コメント（高橋 葉子）

みやまえエコーの皆さんがここまでオンラインを活用され、さらに活動の幅が広げられそう！と思えている大きな要因は、メンバー全員で一緒にツールの使い方を学び、お互いに助けあいながら、何度も練習を重ねられたことにあると思います。また西尾さんをはじめとした中心メンバーが、練習のたびに準備や振り返りを丁寧にされていることや、何より楽しみを見出しながら取り組んでおられる姿には、多くの学びと勇気を頂きました！これからの展開も楽しみです。

実践の棚卸し。体系化していくプロセスで、コミュニティマネジメントに必要なスキルを磨く

「どの施策が上手くいったのかがいまいちわからない。」「どのように考えていたのかを人に伝えられない。」人が集まる“場”にコミュニティマネージャーという立ち位置で関わる中で抱えていた課題でした。コミュニティ塾に参加し、卒業した今では自分の考えた施策に根拠をもって取り組めるようになりました。また相談できる仲間にも恵まれたことが喜びです。これからも試行錯誤しながらも強くあたたかい組織を作っていきます。

コミュニティ塾
8期生

株式会社Blanket／
KAIGO LEADERSコミュニティマネージャー
佐々木 将人さん

必ず次の一日が踏み出せる熱い想いを受け止めてくれる場

団体の大きな構造転換期に参加したコミュニティ塾（E-learning版）。学んだマネジメント手法やワークショップを組織に持ち込むことで、理念や活動計画のアップデートにとどまらず、スタッフ全体がより組織にコミットしていく姿を肌で感じることが出来ました。そして、学びだけでなく、参加者全員の熱い想いを受け止め全力で応援してくれる空気。必ず次の一歩が踏み出せます！

コミュニティ塾
(E-learning版)
5期生

認定NPO法人キドックス
事務局長
岡本 達也さん

コミュニテイ・エンパワメント・ラボをとおして自分の目的が明らかに

ラボでの2ヶ月間は、改めて過去を辿り、いまの自分をしっかりと捉え、これからの未来を具体的に思い描く貴重な時間となりました。運営メンバーや同期メンバーとの壁打ちを経て、「何かあったらここに立ち帰れば大丈夫」と思えるパーソナルミッションも明確になりました。ラボのおかげで自分の希望もクリアになり、いまはその希望を叶えるために歩み始めたところです。ラボはわたしの人生において大きなきっかけとなりました。

コミュニティ・
エンパワメント・ラボ
6期生

認定NPO法人
マドレボニータ（正会員）
桐原 沙織さん

参加者・パートナー・クライアントの声

活動の言語化ができました

事業をスタートして3年目のタイミングでサポートいただきました。これまで事業の振り返りをする機会を持てていなかったので、客観的に事業を整理し、Buranoらしさを言語化していくことが出来ました。また言語化した内容をスタッフ研修を通じて、みんなと共有出来たのも新たなスタートにつながりました。今後も様々な側面からサポートをお願いしたいと思っています。

一般社団法人Burano
理事
秋山 政明さん

コミュニティの価値が高い時代

withコロナ時代の中で、目に見えないけど、大切なものが社会から日々失われていると感じます。そんな中、コミュニティの役割や価値が本当に高い時代に来ていると思います。
CRファクトリーのこれからの大躍進を応援したいし、一緒に作っていけたら嬉しいです！

NPO法人SET
理事長
三井 俊介さん

CRファクトリーは道標です

小学校のPTA活動に関わって6年になります。大変なことはありますが、協力してもらえるスタッフとともに活動を続けていられるのはCRファクトリーで学んだ知識が活かされているからだと実感しています。また、CRファクトリーが企画するイベントで、いろいろな団体の方々との対話の中で得られる気づきも、活動の原動力になっています。CRファクトリーとは、私にとってコミュニティの道標です。

越谷市公立小学校
PTA会長
間藤 大輔さん

コミュニティの写し鏡であり羅針盤

CRファクトリーは、コミュニティの写し鏡であり羅針盤。CRファクトリーという「場」には、それぞれが持つ課題や願いが集められ、私たちは場に集い、語りあうことで、本当に必要なものは何か考えることができる。多様な人や考え方を「コミュニティ」というテーマでゆるやかに合流させ、一つの大きな流れにしてくれる。私たちは大河の一滴となる。CRファクトリーは、いつも寄り添ってくれる大切な友のような団体です。"fast alone, far together."

非営利型株式会社Polaris
取締役ファウンダー／
Chief Story Officer
市川 望美さん

オンラインで新規受講者開拓に

以前より実施にご協力いただいている地域づくりコーディネーター養成講座等について、令和2年度は新型コロナの影響により、従来から形を変え、オンラインで開催することとなりました。オンラインでの講座実施は初めてのことであったため、不慣れな部分が多くありましたが、企画段階から丁寧に相談の場を設けていただいたおかげで、新たな受講者層の開拓に繋がりました。

鎌ケ谷市市民生活部
市民活動推進課
主事
二三四 桃子さん

市民・団体のニーズにあった講座

コロナ禍で講座受講や会議などでオンラインの広がりを受け、市民や団体向けに「Ｚｏｏｍスキルセミナー」を開催しました。講師の先生も柔らかく丁寧に教えてくださり、またワークが中心だったため参加者も大満足！続けてお願いした「仲間づくり講座」でも、各団体での取り組みの再確認ができたとその効果は絶大でした。市民や団体のニーズに合った講座を開催できみな多くのことを学べる機会となりました。

長野県茅野市市民活動センター
『ゆいわーく茅野』
コーディネーター
田中 啓吾さん

研究者として応援し続けます

私は2012年からCRファクトリーと共にコミュニティの研究をしています。人間関係が希薄化する日本社会においてコミュニティの再生は最も重要な社会課題です。2005年からこの課題に取り組んできたCRファクトリーのコミュニティづくりのノウハウは学術的にもその有効性が証明されつつあります。日本社会にあたたかいコミュニティが再生するように私は研究者としてCRファクトリーを応援し続けます。

上智大学経済学部
教授
川西 諭さん

未来社会の旅先案内人

コロナ禍で浮き彫りになった一つが社会（公助）と個人（自助）の分断ではないでしょうか？共に課題解決を目指すものの歯車が噛み合わず、残念ながら他責を追求する姿も散見されます。CRファクトリーを通じて私たちはコミュニティ（共助）が両者をつなぎ、両者の原動力となる歯車であることを学んできました。コミュニティが原動力となるニューノーマルな社会。CRファクトリーは未来社会の旅先案内人なんでしょうね。

こすぎの大学
岡本 克彦さん

CRファクトリーのメンバー紹介

CRファクトリーのビジョンに共感し、共に活動するメンバーをご紹介します。
個性豊かなメンバーの協力と連携に支えられ、私たちも強くあたたかい組織づくりに取り組んでいます。

「主催イベント」プロジェクトメンバー
木原 葵さん

自分が大切にしたいものに気づけた半年間

CRファクトリーには、インターンとして約半年関わらせて頂きました。コミュニティ塾や、コミュニティフォーラムのサポート、集客を担当しました。関わる中で、あたたかいコミュニティづくりとは何かを体感しながら考えることができました。自分が人とどう関わりたいのか、どう生きたいのかを、ゆっくりと考える機会をたくさん作ってもらいました。半年という短い間でしたが、私にとって大切なものに気付けました。

診断を使いコミュニティの今と未来を照らす！

コミュニティキャピタル診断の運営に携わっています。自分の身体とは違い、コミュニティの異変にはなかなか気付きにくく治療するのも一苦労。そんな輪郭がなく実体が掴みにくいコミュニティを色々な人と紐解くのが僕の役割です。『自分のコミュニティがもっと良くなってほしい』と本気で想う人に伴走し、何か大切なきっかけを探す。『コミュニティがより良くなる』きっかけをこれからも探し続けたいなぁと思ってます!

「コミュニティキャピタル診断」
プロジェクトメンバー
小松原 一輝さん

役員

代表理事　呉 哲煥

副理事長　五井渕 利明

理事 阿部 剛
（NPO法人まつどNPO協議会理事）

理事 森 祐美子
（認定NPO法人こまちぷらす理事長）

理事　杉山 絢子
（一般社団法人CAN net代表理事）

監事　石橋 正行

事務局

事務局長　原田 篤志

管理部長　安達 亮

事業部

木原 葵	栗本 蕗	小林 和弘
小松原 一輝	高安 千穂	竹下 諒
高橋 葉子	豊田 有希	平川 暢
保坂 光葉	細川 朋美	米田 佐知子

管理部

卜部 眞規子　　辻 桂子

コミュニティマネジメント認定インストラクター

「インストラクターにかける想い、届けたい価値」

CRファクトリーのコミュニティマネジメントは、共に生きていくための社会技術であり、今を生きる私たちみんなに必要なものです。

宮本 諭
NPO法人コレクティブハウジング社 代表理事

人がその人らしく生きていくために必須であるコミュニティ。どう作り育てていくかを一緒に考えていきたいです。

杉山 絢子
一般社団法人CAN net 代表理事／腫瘍内科医師

CRファクトリーが大切にしている「強くあたたかいコミュニティ」。インストラクターとして必要とする方にしっかりと届けていきたいです。

藤井 寛幸
株式会社Canvas 代表取締役 CEO

キャリアの選択肢の一つとして、コミュニティが今必要とされていると感じています。多くの方にとって、コミュニティがより身近な存在になるように活動して参ります。

高安 千穂
ダブルケアかわさき事務局長／キャリアコンサルタント

阿部 剛
まつどNPO協議会
理事

豊田 有希
一般社団法人 風土人
代表理事

沼田 翔二朗
NPO法人DNA
代表理事

北本 若葉
認定NPO法人こまちぷらす
理事

高橋 葉子
NPO法人CRファクトリー
事務局

ギャザリング・壁打ち（研修）

CRファクトリーもひとつのコミュニティ。メンバーとの対話・ワークショップを通して、
共通認識のすり合わせや相互理解を深めています。※2020年度はすべてオンラインで開催しました。

ギャザリング

2020年5月

理念共感・貢献意欲

コロナ禍の市民活動・コミュニティ活動に関するワールドカフェや、自分×理念プレゼンを通じて、この状況下だからこそ、ビジョンや活動の原点に立ち返る時間を作りました。

2020年7月

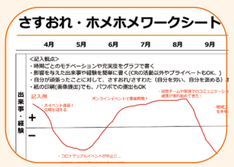
居心地の良さ（関係性づくり）

事前におにぎりの具を送り合ってランチをしたり、ジェスチャーや家にある物でアート作品を作ったりしてプライベートの時間も分かち合うことで関係性が深まりました。

2020年11月

自己有用感（活動振り返り）

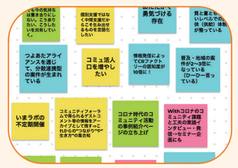
担当業務・プロジェクトについて振り返るワークショップを実施しました。活躍や貢献に、労いと感謝のメッセージを伝え合い、役立ち感や活躍を再確認できる一日になりました。



2021年2月

次年度夢語り（ドリームミーティング）

2020年度の活動を振り返り、2021年度の事業や組織についての夢やアイディアを語り合いました。来年度も関わる意欲やモチベーションが湧く時間になりました。



壁打ち（相互メンタリング）

月に1回・3人1組で、担当業務や他の活動・本業、キャリア等に関する悩みを相談し合う時間をつくりました。日々のコミュニケーション量を増やすことで、助け合いや応援の文化・関係性を育むことができました。

代表メッセージ～今後のビジョン・戦略～

代表理事　呉　哲 煥

CRファクトリー第2幕
次の10年の未来構想

2020年に15周年という節目を迎えたCRファクトリー。ここまでコミュニティひと筋でよくがんばってきたなぁと改めて自分たちを褒め称えつつも、さっそく理事会主導で次の10年のビジョン・戦略を描き、CRファクトリー第2幕がスタートしています。これから10年かけてどんな社会をつくっていきたいと思っているのか。みなさんにも一緒に乗船して航海して欲しいので、いま考えている未来構想をここにご紹介したいと思います。

1.コミュニティ研究所の設立

まず一つ目の柱は「コミュニティ研究所」の設立です。今までCRファクトリーはセミナーやワークショップなどを主軸とした事業を展開してきましたが、一方で「コミュニティ白書」を発刊したり、大学と共同研究をしながら「コミュニティキャピタル診断」の開発をするなど、研究にも力を入れてきました。

ビジョンに基づいて次の10年を構想したとき、「コミュニティ」と「つながり」についての指標やエビデンス（科学的根拠）を開発して、世の中に提供していくことこそが大きなインパクトになると確信しています。経済や医療などに比べると「コミュニティ」に関する指標やエビデンスはまだまだ少なく、社会的な影響力もとても小さいと言わざるを得ません。しかし、これからは「社会的なつながり」や「コミュニティ所属」や「幸福感」などが豊かさの指標になっていく時代だと思います。

そのときに、「コミュニティ」や「つながり」の重要性を肌感覚でわかるだけでなく、データやエビデンスを基にして社会共通で認識できることが、公共的な政策への反映においてはもちろん、社会的な認知にとっても重要だと思います。今さら言うまでもなく、指標やデータやエビデンスの力は大きく、社会を動かしていく力があります。次の10年で「コミュニティ」と「つながり」が豊かな社会をつくろうと思うとき、研究やデータが社会を動かす大きな力になると思うのです。

その立場に立ったとき、今のCRファクトリー内の研究開発室からジャンプアップして、多様な研究者や実務家が関わる研究所を設立することは当然の帰結とも言えます。自分たちだけで指標づくりやデータ収集やエビデンス開発をするのではなく、多くの研究者や実務家との連携を志向しながら、コミュニティに関する「指標とエビデンスのプラットフォーム」としての研究所を構想することがいま未来に向けて最も迫力のある方向性だと考えています。

幸いここまでの大学や研究者とのつながりや、NPO・市民活動団体との共同研究の積み上げがあります。これを更に裾野を広げて、プラットフォームとして器を大きくしながら、指標とデータとエビデンスをたくさん世に送り出す機関として生み育てていくことが次の10年の大きなチャレンジの一つです。ご関心ある方がいましたら、ぜひ声をかけてください。

2.強くあたたかい組織・コミュニティづくりの全国ネットワーク

2つ目の柱は、強くあたたかい組織・コミュニティづくりの全国ネットワーク＝「つよあたアライアンス」の立ち上げです。この15年間のCRファクトリーはどちらかというと中央集権・配給型のスタイルで事業展開をしてきました。それはつまり、セミナー・講座のコンテンツを作成して全国各地に届けたり、『コミュニティマネジメントの教科書』のようなノウハウを書籍・冊子にまとめあげて全国各地に普及していくような展開の仕方です。

次の10年の広がりを考えたとき、このような中央集権・配給型に加えて、「多極分散・連携型」の動きをつくっていくことが必要だと考えています。それは全国各地にある中間支援組織や「強くあたたかい組織・コミュニティ」を地域に広げていきたいと考えている地域団体とアライアンス（連携・提携）を組んで、ネットワークを結びながら、相互に磨き合いアップデートし合うようなネットワーク体をつくる構想です。

既にその構想は動き始めていて、具体的には日本全国10の地域・団体とアライアンス（連携・提携）を組んで、相互の情報交換や実践事例共有をしながら相互研鑽をしていく共同体をつくっています。北は北海道から、南は佐賀県まで、様々な中間支援組織や地域団体が参加して、定期的に会議や研修会を行っています。
※第1段階は、北海道北見市・北海道札幌市・千葉県松戸市・東京都港区・神奈川県川崎市・神奈川県横浜市・長野県長野市・新潟県新潟市・島根県雲南市・佐賀県佐賀市の10地域・団体でアライアンスを形成しました。

この「つよあたアライアンス」を通じて実現したいことは、多極分散・連携型の広がり・ムーブメントです。主体を多極に分散することによって、一つの中心の大きな力によってものごとを動かしていくのではなく、多様な主体の連携によってものごとを動かしていくという世界観です。丁寧なビジョン共有と関係性構築を通じてこの共同体が機能したとき、中長期的には最もインパクトの大きいやり方になると考えています。それぞれの地域の実践事例や開発ノウハウがネットワークを通じて共有され、それぞれの極（地域・団体）に刺激を与えながら全体がアップデートされていく。そうやって全体の質を向上させていくとともに、「強くあたたかい組織・コミュニティ」の全国的な広がりをつくっていくことがこのアライアンスの目指す方向性です。

一つの団体がコミュニティマネジメントのノウハウを研究・開発して、コンテンツ化して、全国各地に届けるという中央集権・配給型の世界観から、全国各地に点在・分散しているたくさんの団体同士がアライアンスを組んでネットワークで結ばれ、それぞれの実践や開発ノウハウを共有しながら相互にアップデートしていく多極分散・連携型の世界観へシフトしていく。そういうチャレンジを次の10年ではやっていきたいと思っています。「強くあたたかい組織・コミュニティ」を地域で広げていくことに関心のある方・団体の参加をお待ちしています。

3.コミュニティ活動力教育

3つ目の柱は、一人ひとりの市民参加・社会参加を促進する「コミュニティ活動力教育」に関する事業です。これは市民・個人一人ひとりが自分に合った最適なコミュニティを選び、そこに参加・所属していく力を育成する教育事業です。一般的には「市民参加」「社会参加」などと呼ばれ、自分の関心のある活動に参加することで、参加している本人のWell-being（健康や幸福）が高まるとともに、地域や社会のソーシャルキャピタル（社会関係資本）を高めることにもつながると考えられています。

自分に合った最適で快適なコミュニティを見つけて参加することができれば、人生の豊かさはぐっと増していきます。また、学校や職場や地域などのコミュニティや関係性において、それらとうまく付き合っていく力があれば、人生はぐっと生きやすくなります。自分に合ったコミュニティをどう探して選べば良いのか？与えられた環境の中でコミュニティや関係性をどのようにうまくつくっていけば良いのか？それらについての教育やトレーニングは今の日本社会においては意図的・明示的にはなかなか行われていないのが現状です。

コミュニティ活動力教育によって身につくのは以下のような力です。
自分に合ったコミュニティを見つける力・参加する力／多様な仲間とうまくやっていく力／チームワークをうまく進める力／コミュニティの中で相互作用しながら自分を高めたりお互いに成長していく力／自分の生きている社会を自分たちでつくっていこうとする市民意識／など。これらの力を多くの人が育むことにより、コミュニティとつながりの中で豊かに生きる個人が増えるとともに、自分が関わる社会や地域やコミュニティを自分たちで担おうとする市民が多く生み出される。これが、この事業の目指すところです。

「コミュニティ活動力教育」事業は、主に3つの対象に対して事業を展開しようとしています。1つ目は学校教育。小・中・高・大学生の子ども・若者たちに、クラスや部活や行事やサークルなどのコミュニティ活動をうまく進める力の育成を図っていきます。2つ目は社会教育。主に20代～40代の社会の中心世代に対して、自分に合ったコミュニティの見つけ方や参加の仕方、そしてうまく活動していく力の育成を図っていきます。3つ目も社会教育。主に50～60代以降の世代に対して、社会参加や地域参加の意識やスキルの育成を図っていきます。

念願の個人に向けた市民参加、
社会参加の教育事業をスタート

これまで長年にわたって「コミュニティマネジメント」に関するノウハウを開発し、NPO・市民活動・サークル活動のマネジメント支援を行ってきたCRファクトリーが、次の10年は個人向けの市民参加・社会参加の教育事業に乗り出します。きっと別の法人をつくってやるくらいの大きなチャレンジになると思いますが、この事業は「コミュニティとつながりの豊かな社会」というビジョンの実現に向けて、創業当初から構想していた念願の事業です。この領域に関心のある方は、ぜひこのプロジェクト、チャレンジにご参加ください。

CRファクトリーの次の10年のチャレンジは壮大なものになっています。しかし、これだけの構想を実感を持って描けるのも15年間の積み上げがあってこそです。CRファクトリーの第2幕に期待していただくとともに、ぜひみなさんも参加していただいて、一緒になってコミュニティとつながりの豊かな素敵な社会をつくっていきましょう。これからもどうぞよろしくお願いいたします。

サービス一覧

参加型プログラム

コミュニティ塾

NPO・市民活動・サークルなどの「組織運営」に必要なマネジメント項目のすべてを体系的に学ぶ全8回の連続講座です。基礎知識から実践的なノウハウまで学んで、組織に大きな変化を起こしていきます。

コミュニティ塾（E-learning版）

「コミュニティ塾」の内容を自宅で動画学習し、スクーリング（集合授業）で実践に向けたアクションを対話を通して深めていく「反転授業」で、コミュニティマネジメントの体系を学びます。

コミュニティ・エンパワメント・ラボ

NPO・コミュニティのリーダー・メンバー同士で、個人のビジョンや軸をブラッシュアップしていく対話プログラムです。自分と団体の関係性、自分のビジョンを見つめ直し、活動へのモチベーションを高めていきます。

導入ツール

コミュニティキャピタル診断

上智大学との共同研究を通して、500団体以上、10,000名を超えるNPO団体のメンバーのアンケート調査で実証された3つの因子をもとに、「組織・コミュニティの状態」を測定できる診断ツールです。

コミュニティ運営支援ツール「コミュ助」

コミュニティ運営における「ミーティング」「イベント集客」「年間計画」の課題を解決する運営支援ツールです。運営に変化を起こす具体的な方法・進め方がわかり、すぐに導入できるテンプレートもご提供します。

セミナー・研修・コンサルティング

強くあたたかいオンライン組織マネジメント

オンラインでも「関係性が深まるミーティングやコミュニケーション」や「理念共感を高める仕組み」、「オンラインツールの導入・活用方法」などwithコロナ時代に特化した支援を提供します。

書籍

コミュニティマネジメントの教科書

CRファクトリーが10年以上にわたって培ってきた「強くあたたかい組織・コミュニティのつくり方」の知見やノウハウのすべてを学べます。組織運営の基本原則や事例・施策集など、基礎から実践まで活用できる書籍です。

NPOの組織マネジメントノウハウコレクション

NPO・非営利組織22団体に調査を行い、現場で実際に行われている組織マネジメントの145の施策・ノウハウを分析！重要な「３つの観点」に集約し、その具体的な事例を豊富に掲載しています。

コミュニティ白書

現代日本において多くの社会問題が発生している構造要因を紐解いていくとともに、統計データなどのエビデンスをもって「つながり」と「コミュニティ」が健康・幸福・教育に効果があることをご紹介しています。

会計報告

活動計算書

令和2年4月1日～令和3年3月31日（単位：円）

科目		金額［税込］
【経常収益】	受取会費	405,000
	受取助成金	5,602,498
	事業収益	15,263,689
	受取利息	33
	雑収益	353,321
経常収益 計		21,624,541

【経常費用】	事業費	給料手当	2,885,780	管理費	役員報酬	1,800,000
		業務委託費	4,525,321		給料手当	2,659,234
		外注費	617,993		法定福利費	978,243
		謝金	365,000		業務委託費	2,588,289
		旅費交通費	74,856		消耗品費	25,901
		消耗品費	68,504		荷造運賃	22,562
		荷造運賃	279,831		通信費	165,581
		通信費	75,944		印刷費	146,431
		印刷費	1,044,990		諸会費	15,000
		施設使用料	441,650		地代家賃	1,320,000
		売上原価	-323,174		賃借料	660
		租税公課	200		支払報酬	544,775
		雑費	156,147		租税公課	270,553
					支払利息	763
					雑費	202,673
		事業費 計	10,213,042		管理費 計	10,740,665
経常費用 計			20,953,707			
当期経常増減額			670,834			

税引前当期正味財産増減額	670,834
法人税、住民税及び事業税	163,800
当期正味財産増減額	507,034
前期繰越正味財産額	4,181,851
次期繰越正味財産額	4,688,885

貸借対照表

令和3年3月31日 現在　（単位：円）

資産の部			負債の部		
科目		金額(円)	科目		金額(円)
流動資産	（現金・預金）		流動負債	未払金	775,835
	現金	2		前受金	330,000
	普通預金	12,254,859		預り金	219,757
	現金・預金 計	12,254,861		仮受金	0
	（売上債権）			未払法人税等	163,800
	未収金	2,326,948		未払消費税等	267,400
	売上債権 計	2,326,948	流動負債合計		1,756,792
	（棚卸資産）		固定負債	長期借入金	8,480,000
	商品	343,868	固定負債合計		8,480,000
	棚卸資産 計	343,868	負債合計		10,236,792
流動資産合計		14,925,677	正味財産の部		
資産合計		14,925,677	正味財産	前期繰越正味財産	4,181,851
				当期正味財産増減額	507,034
				正味財産合計	4,688,885
			負債及び正味財産合計		14,925,677

団体概要

団体名　特定非営利活動法人CRファクトリー

所在地　〒108-0014 東京都港区芝4-7-1 西山ビル4階

メールアドレス　info@crfactory.com

設立　2005年9月26日　16期目

目的　この法人は、広く一般市民に対して、コミュニティ支援に関する事業を行い、人々が愛着を持てるコミュニティがあふれる世の中を実現し、すべての人が絆・居場所・存在意義を感じながら、生き生きと充実した人生を送ることのできる世の中づくりに貢献することを目的とする。(定款第3条より)

事業内容
(1)人々が居心地良くイキイキと活動するための組織基盤づくりを支援する事業
(2)中間支援組織等と共に組織基盤づくりを支援するパートナーシップ事業
(3)全国に「強くあたたかい組織」を溢れさせるための普及育成事業
(4)地域に元気な団体と個人を増やすために自治体と連携して地域づくりを支援するアウトリーチ事業
(5)「強くあたたかい組織」をつくるためのノウハウ研究・開発、「つながりとコミュニティの重要性」についての研究・エビデンスづくりを行う調査・研究事業
(6)その他、目的を達成するために必要な事業

役員

代表理事　呉 哲煥
理　　事　五井渕 利明
理　　事　森 祐美子（認定NPO法人こまちぷらす 理事長）
理　　事　杉山 絢子（一般社団法人CAN net 代表理事）
理　　事　阿部 剛（NPO法人まつどNPO協議会 理事）
監　　事　石橋 正行

事務局

事務局長　原田 篤志
管理部長　安達 亮

会員数

個人正会員 20名/個人賛助会員 13名/団体賛助会員 3名(2021/3/31時点)